



ニューフィルハーモニック大阪
第25回定期演奏会

～遠き故郷へ万感の想いをこめて～

指揮：橋本徹雄

日時：2023年3月5日(日)

12:45開場・13:30開演

会場：堺市立西文化会館ウェスティホール

主催：ニューフィルハーモニック大阪

協力：大阪市立難波市民学習センター



PROGRAM



指揮：橋本徹雄

アントニン・レオポルト・ドヴォルザーク
Antonín Leopold Dvořák

弦楽セレナーデ ホ長調 作品22
Serenade for Strings



第1楽章：Moderato
第3楽章：Scherzo; Vivace

管楽セレナーデ ニ短調 作品44
Serenade for Wind Instruments

第1楽章：Moderato quasi marcia
第2楽章：Tempo di minuet - Trio. Presto
第3楽章：Andante con moto
第4楽章：Finale. Allegro molto

交響曲第9番 新世界より ホ短調 作品95, B. 178
Symphony No.9 From the New World

第1楽章：Adagio—Allegro molto
第2楽章：Largo
第3楽章：Scherzo. Molto vivace
第4楽章：Allegro con fuoco



ご挨拶

本日は、ニューフィルハーモニック大阪 第25回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

当団は、大阪市内を主な活動場所としています。団員の居住地や年代は様々で、その顔ぶれもキャリアも多彩です。本日、このように演奏会を開催できますのは、ご指導くださいます諸先生方、多大なご支援を頂いております大阪市立難波市民学習センター様、そして、本日も来場くださいましたみなさまがたの温かいご支援の賜物と、団員一同、心より感謝いたしております。

さて、本日はドヴォルザークによるプログラム。民族音楽的で哀愁に満ちた音楽世界をみなさまにお届けできればと思います。

この情勢下、仲間とともに演奏活動を続けられることに感謝し、精一杯取り組んでまいりました。最後までお楽しみいただければ幸いです。

プロフィール



ニューフィルハーモニック大阪

1997年4月、ヤマハ音楽振興会大阪支部(当時)が音楽普及活動の一環として「ヤマハフィルハーモニック大阪」を結成。2005年9月ヤマハ音楽振興会西日本支部から独立し、「ニューフィルハーモニック大阪」に改名。音楽監督は大阪音楽大学の橋本徹雄氏。団員はオーディションにより選考し、その構成は学生から会社員、主婦などさまざまである。

結成当初よりモーツァルトやベートーヴェンの交響曲など、古典派を中心に曲に取り組む。近年では古典派にとどまらずそのレパートリーを広げている。

年1回の定期演奏会を中心に演奏活動を行い、1998年・1999年・2001年に社会福祉法人日本ライトハウスが主催する「チャリティーコンサート」に招かれて出演。また、高石市より依頼を受け、2003年にアブラホール柿落とし演奏会、2007年より3年おきに「第九in高石」に出演。2005年～2007年には大阪厚生年金会館が主催する「サマーフェスティバル」に招かれて出演。2009年から毎年、アブラフィルハーモニー合唱団と合同で「アブラニューウェーブコンサート」を行うなど、活動の場を広げている。



音楽監督・指揮者：橋本徹雄

1969年、大阪音楽大学音楽学部卒業。1976年・1977年、オーストリア・モーツァルテウム音楽院で指揮法を学び、ディプロマを習得。大阪で開催する異なったテーマによるオーボエリサイタルシリーズも15回を数え、高い評価を得ている。また、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪市音楽団をはじめ、プロ・アマチュアのオーケストラや吹奏楽団・合唱・オペラなどを指揮し、幅広く活躍している。

これまでに大阪音楽大学講師、旧大阪交響楽団(大阪フィルハーモニー交響楽団の前身)の指揮者、高松短期大学の講師を勤めた。現在、関西シティフィル名誉指揮者。高石市民音楽団の指揮者。和歌山大学交響楽団音楽監督。1997年よりニューフィルハーモニック大阪の音楽監督。プティ・バロックアンサンブル主宰。日本演奏連盟会員。高石市文化協会会長。高石市民音楽団顧問。たかいし市民文化会館アブラホールアドバイザー。日本オーボエ協会理事。NPO法人関西音楽人クラブ副理事長。

プログラム・ノート

今回は、オールドヴォルザークプログラム。「新世界より」はあまりにも有名ですね。一方、前半2曲は、なかなか演奏機会の少ない曲です。特にアマチュアオーケストラで演奏されるのは非常に稀。作曲された年代も大きく離れています。本日は、そんな対比をお楽しみください。

「弦楽セレナーデ」は「新世界より」が作曲されるよりもずっと前、1875年、ドヴォルザークが33歳の時の作品です。彼はその2年前の1873年、「白山の後継者たち」という曲で初めて作曲家として成功。そして同年には13歳年下の妻を迎えます。翌1874年には、伝統ある教会のオルガン奏者として就職にも成功。さらに本作の作曲に着手する2ヶ月前には奨学金にも合格し、年収が倍以上になります。まさに順風満帆。この曲も、たった11日で完成しています。本日は、そんな曲から、第1楽章および第3楽章を抜粋してお届けします。

「管楽セレナーデ」は、「弦楽セレナーデ」の3年後の作品です。作曲家としての仕事は相変わらず順調。しかし、この曲を作る直前、次女と長男が相次いで亡くなってしまいます。そんな中で作曲されたこの作品は、悲しみとは裏腹に明るい曲調。その中に彼の悲しみがどう込められているのか、感じてみてください。

そして「新世界より」。作曲されたのは1893年。彼が51歳の時の作品です。日本では明治26年ですね。ドヴォルザークがアメリカのナショナル音楽院の院長として招かれ、そこで作曲した交響曲。新世界とは、当時まだ新興国だったアメリカのことです。定期航路があったとは言え、気軽に行ける距離じゃありません。陸路も含め、2週間ほどの行程だったそうです。ドヴォルザークも当初はオフアを断ったものの、それまでの25倍の年俵を提示されて引き受けたのだとか。

この曲には、ドヴォルザークがアメリカで出会った新たな音楽と、故郷への郷愁が込められています。実際、彼は翌年、強烈なホームシックになって体調を崩してしまいます。そして1895年、ドヴォルザークはアメリカを去り、帰国します。そして、1904年に亡くなるまで、二度とかの地を踏むことはなく、新たな交響曲も作曲しませんでした。

出演メンバー

1st Violin : 駒木 要[◎]、太田 まり、亀谷 英行、副島 恵、谷口 康子、松尾 世為子、
中野 みなこ^{*}、山名 公子^{*}

2nd Violin : 小路 梓、砂田 香、西原 伸絵、藤原 美奈、古田 豊彦、山本 幸香、
杉本 明音^{*}、柳浦 香澄^{*}

Viola : 西野 智子、菱田 圭亮、河原 結花^{*}、西内 泉^{*}

Cello : 岩本 千津子、貝原 有、徳山 琴子、古田 佐和子、箕口 雪絵、近松 典子^{*}

Contrabass : 玉田 光弘、足立 洋人^{*}、安藤 吉繁^{*}、中村 純^{*}

Flute : 坂口 そのみ、橋本 恵菜

Oboe : 檜尾 匡人、本田 剛、吉村 あみ^{*}

Clarinet : 長野 容子、古宮 香奈子、米良 佳織

Fagotto : 安藤 早苗、遠藤 香^{*}、濱野 彩^{*}

Horn : 大竹 匡教、蒲田 哲也、香山 恒、深江 祐樹

Trumpet : 黒瀬 義則、篠木 章江

Trombone : 岩井 憲一、岡崎 正悟、日岡 見紗

Tuba : 安保 昌洋^{*}

Percussion : 谷向 利彦^{*}、上野 裕子^{*}

◎印：コンサートミストレス

※印：エキストラ

トレーナー：中川 順博、山根 郁

団員募集

募集パート：Vn、Va、Vc、Cb、Fg、Tp、Tb、Perc

※簡単なオーディションあり

※Cbは貸与楽器あり

練習：毎週月曜日 18:30～21:00

難波市民学習センター（大阪市浪速区湊町1-4-1 JR難波駅直結・OCAT 4F）

団費：4000円/月（学生半額）、入団費：3000円

詳しくは、ホームページへ → <https://newphilosaka.wixsite.com/home>

ホームページ



今後の演奏会

第13回 アブラニューウェーブコンサート 第6回第九in高石

2023年10月1日(日)

たかいし市民文化会館アブラホール

グリーンカ/歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲

ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱付」

第26回 定期演奏会

2024年2月18日(日)

いずみホール

ソリスト：木野雅之（日本フィルハーモニー交響楽団 ソロコンサートマスター）

ブラームス/ヴァイオリン協奏曲 他